

牛久：学校周辺に見る自然

第17号 牛久運動公園，稲敷市民農園

2011年6月20日発行

< クリの木をめぐる虫たち >



クリの白い花穂が目だつ季節になりました。クリにはオスの花とメスの花がありますが、見分けられますか？ 白い花穂の大部分は雄花です。雌花はどこかと探してみると、枝先に近い葉のわきから出る花穂のもとについていました。まだ、あのトゲトゲは発達していません。緑色のまだ若いいがに包まれていて一つの花に見えますが、この中に3つの雌花が入っています。それぞれの雌花から針のような花柱が9本くらいずつ束になって出ています。そういえば、秋に熟すといがが割れて、ふうふう3個の果実が出てきますね。



左からクロウリハムシ、マダラアシゾウムシ、ハエ(センチクバエ?)とアオカミキリモドキ

さて、植物の種子が出来るには、雄しべの花粉が雌しべの柱頭に付く(受粉する)必要があることは、5年生で勉強しますが、花粉の運ばれ方は植物の種類によってそれぞれです。クリの場合はどうでしょう？

花が咲くと独特の臭いが漂いますね。その臭いにつられていろいろな虫たちが集まり、花粉や蜜をもらいながら花粉を運んでくれます。私にはお世辞にもいい香りとは思えないので、きっと本などに書いてあるようにハエや甲虫の仲間が主なのだらうと思っていました。観察してみると、確かにそれらが多く訪れてはいましたが、予想していた以上にたくさんさんのチョウやハナアブ、ハナバチの仲間なども訪れていました。スズ交尾中のアオカミキリモドキ(左上)と、コアオハナムグリ(右下)



メバチまでやってきて、改めて、^{せんにゆうかん}先入観にとらわれず観察することの大切さを感じました。



多くないがハナバチの仲間(左上)やモンシロチョウ(右上)、アオスジアゲハ(左下)、ハナアブの仲間やルリシジミ(右下)も。ヒロオビトンボエダシャクは交尾しながらも蜜を吸っていました(中上)。

そして、中には、葉を食べるガの幼虫^{ようちゆう}や、寄生^{きせい}して虫こぶをつくる虫たちもいます。どこかにアブラムシでもぐっているのか、テントウムシも幼虫、さなぎ、成虫とたくさん見られました。それ



左からヨモギエダシャク?の幼虫、クスサン幼虫、雄花にできた虫こぶ

を追い払うアリのすがたも。さらには、それらクリに集まってくる虫たちを待ち構えて捕らえるクモなども・・・。1本のクリの木に、何とたくさんの数のいろいろな種類の虫たちが訪れていることで



ナミテントウの幼虫(左)とサツミノダマシ(右)

しょう。それぞれ目あては違っても、クリの木にエサなどを頼^{たよ}って集まっているのですね。そして、クリも逆に花粉を運んでもらうことで助かっているし、それらの虫たちもお互いにつながっているのです。 【理科支援員 宮内】